

和菓子で地域へ恩返し

住宅街にある和菓子店。上新粉は渋川市産を使用し、定番の豆大福や片品村産大豆のきな粉を使った真田餅などが並びます。2019年、岡田久美子さんが和菓子「おか田」を開店させました。

2014年、千葉県習志野市から夫の恒栄さんと移住。

都内で20数年、和菓子店を営んでいましたが、「ほどよい田舎暮らしを楽しみたい」と、関東周辺で移住先を探していました。沼田には、玉原高原の「星空観察会」や、南郷の曲屋のスローフード体験などに足を運んでいました。自然の豊かさや人の優しさに魅了され、また、都内へのアクセスが良く、医療機関やスーパーが充実していることから、移住を決めました。都会暮らしから大きく変わったのは地域との交流。

以前は顔を合わせればあいさつする程度でしたが、今では農作業をしている人から声を掛けられたり、近所からお裾分けをいただいたりしています。ボランティア活動にも参加し、畑仕事など田舎ならではの体験を楽しんでいます。

移住後の仕事は予定していませんでしたが、地域へ恩返しをしたいと、店舗兼住宅の和菓子店を構えることに。「おまんじゅうがおいしい」と親しまれています。開業前には、南郷の曲屋のスタッフから看板や椅子を作ってもらったなどの応援もありました。

医療機関へはバスで通い、「バスの本数が増えて乗りやすくなると、自動車免許返納も身近になるのでは」と岡田さん。都会目線も持ち合わせ、地域に溶け込み沼田暮らしを満喫します。



和菓子おか田
岡田恒栄さん、久美子さん - 柳町 -



【写真上から】季節限定のごまあんが入った駄まんじゅう/趣のある和風の店構え/移住前に参加した田舎体験ツアー。今ではスタッフとして手伝っている

特集2 理想の移住を叶える

沼田で見つけた ちよろびどい暮らし

若者の都会への転出や少子化の加速などで人口減少が課題となる中、沼田に魅力を感じて移住してくる人たちがいます。「住みやすそう」「東京に近い」「理想の働き方ができそう」。住み慣れた土地を離れてさまざまな思いを描き、新天地で新たな人生を歩む皆さんの今を紹介します。



山村和生さん、聡子さん
- 宇楚井町 -

移住後に飼い始めたペットとの触れ合いは心変わりするとき



【写真左から】庭に造ったスノーボードの練習設備/夕暮れ時の散歩。田んぼの水がオレンジ色に染まるさまもお気に入り/毎シーズン60回以上はスノーボードを楽しむ

「眼下に広がる美しい山々。この景色に飽きることはありません」。2017年、山村聡子さんは夫の和生さん、子ども2人の家族4人で千葉県から移住。市内の企業でIT関連の仕事をしています。

和生さんが趣味のスノーボードを楽しみたいと、約20年前から家族で利根沼田地域を訪れていました。愛着が増すにつれ、和生さんが勤務地の東京まで通えることを第一条件に、生活の利便性が充実し、自然豊かでのびのびとした環境で子育てができることから移住を決めました。

移住後、山村さんは沼田で就職。前職を生かしながら、幅広い業務を任されています。地域の活動にも積極的に、地区の班長や育成会長、子ども学校の役員などを引き受けてきました。野菜のお

スノボで通った沼田へ移住

裾分けがあったりスマホの使い方を教えたりと、近所付き合いにも感謝しています。一方、東京へ約2時間かけて通勤する和生さんは、新幹線のオフィス車両で仕事を進めたり、音楽を聴いたりして過ごしています。市の新幹線通勤費の補助制度を第1号として利用し、「通勤費の一部に充てられて助かりました。満員電車の疲労も軽減」と話します。

仕事の基盤はそのまま、生活環境を変えた山村さん一家。「沼田への移住に向いている人は周りとは比べない人。沼田にないものもありますが、それらをも信じたものを好きと言える人なら楽しめます」。『デジタル寺子屋×保護犬猫カフェ』のように、いくつかは教育と福祉に関わる活動をしたいと思ひ描きます。